

住みたい、住み続けたい！「きたまた」にまた来たい！

奥州市北股地区センター



葦名堰の清掃ボランティア



農作業ボランティア

公民館の沿革・年表

- ・昭和42年10月17日 北股小学校新校舎落成
- ・平成18年 3月31日 北股小学校と衣川小学校統合（廃校）
- ・平成19年 5月22日 北股地区振興会設立
廃校を北股地区センターとして活用
- ・平成20年 6月14日 岩手宮城内陸地震（避難所開設）
- ・平成20年 9月 地区内各行政区の自主防災会設立
- ・平成22年 6月 北股地区自主防災会連合会設立
- ・平成23年 3月11日 東日本大震災
- ・平成25年 3月 北股地区高齢者組織「北生会」設立
- ・平成29年 4月 北股地区センターの指定管理者制度開始
岩手県立大学との地域協働研究開始

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 平成 30 年から実施しているボランティアワークキャンプに、地域外から大学生を中心に4年間で延べ606名のボランティアが参加して活動を展開している。
- 地域外の大学生等が、ボランティア活動を通して、住民と交流しながら地域課題の解決を図り、地域への関心を深めている。
- 堰清掃や農作業の手伝いなど、地域全体や住民個人を対象として、それぞれの課題解決に向けた幅広い活動を行っている。

1. 都道府県名	岩手県	3. 公民館対象人口	468人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)	
2. 市区町村名	奥州市	4. 建物設置年月日	昭和42年10月17日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	60台以上 (3回線)	
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者 (北股地区振興会) <input type="checkbox"/> その他 ()					
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 36人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 191人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 263人 (遠足支援、子ども食堂、会議等振興会関連)				合計	490人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 4人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input type="checkbox"/> 非常勤 1人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 職員のうち社会教育士の数 0人) 合計 5人					
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input checked="" type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()					
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 (北股地区振興会総代会)					
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 子ども食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他 ()					
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 () <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 (廃校を地区センターとして活用。隣接する広場に衣川天文台(屈折式としては日本最大級の望遠鏡)が設置されている。)					
14. 各種事業等で連携・協働している団体等(団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 岩手県立大学、東北学院大学、一関修紅高校、あゆみ園、衣川小学校、衣川中学校、民間企業、奥州市社会福祉協議会					

奥州市北股地区センター

OPEN 8:30~21:00

H P <http://kitamatacc.floppy.jp/>

T E L 0197-52-6513

SNS <https://www.facebook.com/kitamatacc/>





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

●若年人口の流出による人口減少の影響を受けて、少子高齢化が進行している北股地区では、農作業に加えて、日常的な自宅の掃除、移動、介護などの生活ニーズを、世帯内で充足することが難しくなっている。これまで、これらの日常生活ニーズを充足していた血縁・地縁による相互的なサポートも、高齢化と人口減少の中で、その維持が困難となっている。地域社会のネットワークの縮小は、それまで集落内で営まれてきた共同作業へも影響を及ぼしている状況にある。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【学生との協働によるボランティア活動「ボランティアワークキャンプ」】

①地域の住民の生活や生業の課題解決（個人・世帯）

個人宅の庭の草刈りや家屋内の片付け、稲作や花き等の農作業の手伝いを行う。

②地域（集落）の課題解決

農業用水路の一斉共同作業や、共同放牧地及び牛舎の管理、地域の特産品（山ぶどう）の収穫作業等を行う。

③住民とボランティアの交流

初めてのボランティア参加者を対象に、地域巡り（オリエンテーション）を実施。また、地域住民との交流の時間を設定している。

【岩手・宮城内陸地震の教訓を踏まえた取組】

自主防災会連合会が毎年6月に防災訓練を実施。ドローンによる被災状況の確認、デジタル無線による各地区の避難情報の共有など、住民の防災意識の向上に努めている。

【子ども食堂の開催】

奥州市、社会福祉協議会、株式会社モリレイ(矢巾町)が協定を締結して推進している取組。冬のボランティアワークキャンプに合わせて実施し、子どものいる家庭のほぼ全戸の親子が参加した。



地域巡り（オリエンテーション）



防災訓練の様子



子ども食堂の様子

3. 取組による成果や効果

●ボランティアワークキャンプをきっかけとして、岩手県立大学に学生ボランティアサークル「北股フレンズ」が設立された。その活動は専修大学、一関修紅高校など他の学校にも広がっており、多くの学生が参加している。

●ボランティア活動を通じて地域住民と学生の関係性が構築され、「夏祭り」等の地域のイベントや、「太鼓」の伝承など、多様なニーズへの対応に繋がっている。

●地域の企業から学生ボランティアを支援するために、自動車（3台）の無償貸与を受けるなど連携体制が構築された。

●コロナ禍の支援の在り方として、Webを活用した「オンライン型支援」の構想を練っている。



北斗国見太鼓の練習

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

●北股地区コミュニティ計画作成にあたり、住民によるアンケート調査を実施している。

●北股地区コミュニティ計画に基づき、各部門ごとの活動計画を検討する会議を毎年1回以上実施している。

●各事業後には事業に関わった学生ボランティアに対し、活動の振り返りアンケート及び「フレンズノート」という冊子への記入等により取組の検証をしている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

こころ豊かに自然と調和する 誰にもやさしく・なつかしい・住みたい・住み続けたい『きたまた』

豊かな自然と共に暮らしながら、誰もが住み続けたいと思える地域にしていくため「4つの柱」に沿った取組を推進していく。

●人口・子育て・教育 ●安心・安全・環境 ●健康・福祉 ●農業・産業



星空日本の観察会

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

●地域のボランティアセンターとして、県立大学等との連携による活動を軸にしなが、地域内外への情報発信を通じて活動内容や参加者の多様化を目指す。

●農村DXセンターとして情報発信しながら「定年帰農」や地域出身者の里帰り就農など、将来的に北股に戻り農業を継ぐ人の増加を期待し、特色ある活動を継続させていく。



牛追い作業のボランティア